



子どもの声に活気づく幼稚園

2学期を迎え、子どもの元気な声が園舎に響いてきます。今年の夏も、休み前に「自分の命は、自分で守り、3日には、みんな元気に会いましょう」を伝え、元気な顔を見ることができました。久しぶりの教室では、夏休みの楽しかったことや思い出に残ったことを先生に報告したり、友達と談笑したりして、賑やかな朝を過ごしていました。静かな幼稚園が、急に、賑やかな子どもの園になりました。

子どもたちの「みんなのなつ」を見ていると、今週の「おやくそく」欄に、「おうちのおてつだいをする」「げんきにあいさつをする」「ぴあののれんしゅうをする」などが書かれ、毎日、約束が守れたというシールが貼ってありました。それぞれのご家庭で決めた約束が、きちんと守れたようです。2学期は運動会や劇の発表会が待っています。私たちは、今学期も子どものよさを伸ばす努力を致します。

雨に打ち勝った夏まつり

午前中は晴れ間を見せていた秋空が、午後になると一天俄かに掻き曇り、2時過ぎにはとうとう集中的な大雨となり、一時は、延期を覚悟したほどでした。3時過ぎになると、曇り空に変わり、真夜中まで雨は降らないという予報を信じて、夏まつりを決行しました。「〇心と秋の空」は変わり易いと言われていますが、今年の天気は、判断を狂わせず。

開始時刻になると大勢の参加者でロータリーが埋まり、雨で参加者が少ないのではないかという心配が、杞憂に終わりほっとしました。

今年は、仮園舎のために室内での実施が困難であることから、企画委員さんが、ロータリーでの出店の配置と導線について綿密に計画されたお陰で、全ての店が、行列を作るほどの賑わいで、子どもも大人も満足した様子でした。

らいおん組のソーセージ売り場では、例年よりも例年より本数が少ないこともあって、いち早く完売し、安堵されたお父さん方。お菓子コーナーでは、



仮園舎でも楽しく過ごしたお泊り保育

今年の異常な暑さのため、仮園舎でのお泊り保育を心配しましたが、日中は暑くても夜は比較的凌ぎ易い夜であったために、子どもたちは、友達や先生と楽しい2日間を過ごすことができました。

那珂川では、冷たい水を友達と掛け合ったり、川の生き物を探したりして楽しみ、水遊び後には、お母さんの愛情が籠った大きなおにぎりを頬張りました。そんなに食べて、夕食が入るかなと心配しましたが、自分達が入参やジャガイモを切って作られたカレーはまた格別と見え、何杯もおかわりする子どももいました。

キャンプファイヤーでは、先生が工夫を凝らした出し物に、子どもたちは大喜びでした。そして、今年も、夜に泣き出す子どもは一人もいませんでした。

翌朝、協力して布団やシーツを片付け、助け合うことの大切さを学んだ2日間のお泊り保育でした。



「市販のお店では30円するお菓子が、ここでは10円ですよ。一番のお買い得商品です。」と説明されるお母さん。

玉入れコーナーでは、昨年度までとは違って、子どもが好む絵本を題材にした手作りの的で、なかなかの出来栄に満足そうなお母さん。一方で、大きな穴の開いた的なのに、なかなか命中(球が穴を通過)せず、残念がる子どもたち。

保護者の皆さんは、クラスでの子どもたちの盆踊りのシャッターチャンスを見逃さず、いい絵が撮れましたか? 特に、年少さんの動きは、どんな動きでも、とても愛嬌があり、可愛いらしい踊りでした。

盆踊りの後のサプライズは、ロータリーでの花火です。仮園舎で夏祭りの楽しみが減った分、子どもたちに別の楽しみをプレゼントということで、企画委員さんが、花火を計画されました。高く打ち上がるたびに、「ウォー」「ワアー」の歓声が上がリ、大成功でした。今年だけでなく、来年も実施してほしいという声があちこちから聞かれました。

火付け役のらいおん組さん、ご苦労様でした。